

能登 いまい農場だより 3月号

お買い上げ頂き、ありがとうございます。
今年は、雪がほとんど降らなかったせいか、北陸に住んでいても季節感がほとんど感じられず、はやくも春の気配といった感じです。
皆様、如何お過ごしでしょうか？



ふきのとう(31.0303)



梅の花(31.0303)



タマネギ(31.0303)

■困った^{すぎばやし}杉林の処分

私の住む小田中(集落)には、比較的新しい住宅団地約10戸があります。その住宅団地の上部には、農業用ため池があり、住宅地とその間に40年から50年ぐらいの杉木立があります。先日、住宅地住民から「杉が大きくなり、強風が吹くと倒木などが怖いので伐採してもらえないか？」と区長である私に申し出がありました。調べたところ、2軒分、約100本の杉の木がありました。2軒の所有者からは、「区長にお任せします」との返事を頂きました。「よっしゃ、なんとかなる」と思い、近くの製材業者に見てもらったところ、木の目が粗そうなので構造材には不向きであるため、欲しくないとの返事。木材価格も安く、伐採搬出にお金がかかり、持ち出しになるのではないかとのことでした。



東京オリンピックの競技場建設などで、木材が使われ、以前に比べ価格も良いので、持ち主にいくらか還元できるのではないかと考えた私の考えが甘かったようです。

手入れの行き届いた山林とそうでない山の違いで、今回は後者のほうで、下枝等も生えています。伐採本数を減らす、材木市場への売却、ベニヤ、パルプ材等も考慮に入れながら、別の会社にも見積もりをお願いし、極力持ち出しの少ない方法を選び、集落で考えたいと思います。

■トラクターに装着したあぜ塗り機で、あぜ塗り作業をはじめています。3月17日には集落総出で井堀作業や、農道の敷き砂利作業を予定しています。農作業も本格化しつつあります。
(裏面につづく)

■土壤分析結果から

昨年12月、稲刈り後の水田土壌を採取し、土壤分析に出した結果が2月中に届きました。

一口に、水田と言っても1枚の田んぼでも、地質が違います。水口あたり、真ん中辺り、水戸尻り近くといった感じで作土層を採取し、土を乾燥させ、混ぜ合わせて1カ所の試料とします。それを場所ごとに5から6カ所選び分析に出しました。

燐酸、加里、ケイ酸分が不足しているという結果でした。毎年のように、熔成燐肥を100kg/10アール散布しているのですが、それ以上に稲に吸収されているということです。天然供給量といって、用水や、雨で一部供給されることもあるのですが、それは僅かです。

熔成燐肥とは、<溶性燐酸を17%、アルカリ分40%、<溶性苦土を12%、可溶性ケイ酸20%のほかマンガンやホウ素なども含まれる土壤改良資材です。

トラクターに装着したブロードキャスター（肥料散布機）で散布するのですが、1袋20kg入りで、1枚あたり15袋、（30アール水田）この労力は相当なものです。ややもすると、腰痛を起こしかねないので、トラックの荷台からブロードキャスターに直接入れていきます。また、トラクターの重量もありますので、天気が良く水田が堅い状態で散布しないと、水田の耕盤を痛める恐れもあります。

「病気に強い」、「根ばりが良い稲の姿」、そして「お客様が食べて美味しい」といわれるお米作りには、この土壤分析と有機質肥料設計が欠かせません。後は農家の努力とお天道様次第になるのでしょうか。

■わずかですが、かきもちを同送させていただきました。

配送中、割れるかもしれませんが、それはお許しください。

レンジで1から2分、オープンなら、もう少し時間がかかりますが、お召し上がりください。